

WELLBEING

指導部通信

Date:2025.May.1 Vol.3

丸岡南中学校生徒指導部

文責：荒井啓臣

もうすぐ、GWです！

みなさんそれぞれが、自分の時間を楽しむことと思います。しかし、気のゆるみや解放感から、思わぬ事故や事件に巻き込まれたりすることがあります。このようなことが、起きてからでは取り返しがつきません。みなさんは、「このくらいならいいや！」とか「見られてないからだいじょうぶ！」というような自己中心的な甘い気持ちや考えをもったことはありませんか？私は、ありました。そして、そのために自分はもちろん、周りの人もつらい思いをさせたことがあります。私は、人間、誰もがその弱さを持っていると思います。そして、その弱さを克服できるのも人間だと思っています。以前、ある生徒と話をしたとき、以下のことを今年は大切にしたいといっていました。

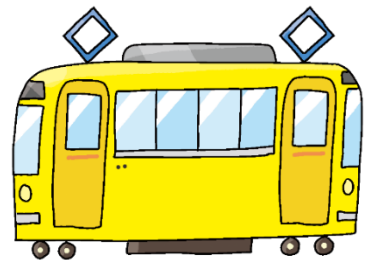
「人から言われてやるのではなく、自分からやる必要がある」

「叱られるからとか、怒られるからではなく、自分で律して自らやる必要がある」

成長のためには、この考え方・構えが必要不可欠です。皆さんも経験がありませんか？

例えば、勉強を考えてみましょう。先生や親に言われてやる宿題は……。嫌々、やっていますよね。力を定着させたり伸ばしたりすることよりも、提出することが目的になっていますよね。その結果……。勉強したつもりでも、全然身に付いていなかったり、「やったはずなのに」とテストで後悔したりするんですよね。これは、スポーツでも同じで、目的意識や課題意識が高く、義務や強制でない練習こそが、非常に効果的であると解明されています。

ところで、丸岡南中学校の学校教育目標を知っていますか？「**信頼を重んじ、感謝と自主・自立の精神を育てる**」です。今回の話は、成長がキーワードであり、GWの生活に関わって「**主体的**」「**自主的**」ということについて、ある話を紹介したいと思います。私たちは、成長するにしたがって、「自主的」とか「主体的」という言葉を多く使うようになります。「自主」とは一体どんな状態のことでしょう。辞書には、「他の干渉を受けずに自分のことを自分で行うこと」と書いてあります。私は、過去にサッカー留学でドイツのハンブルクという街に住んでいる教え子から手紙をもらいました。その内容の一部を紹介します。



ハンブルクへ到着するとまもなく、電車で市内へ行くために、切符を買おうとしましたが、切符の買い方がわかりません。駅員に聞こうとしましたが、誰一人係員がいません。

困っていたらようやくお客さんに助けられ、切符を手にすることができました。しばらくして、すべての駅には、駅員や係の人は誰一人いないことがわかりました。いるのは、運転手、あるのは自動販売機のみ、監視員も誰もいません。悪い心があれば、ただ乗りできるのです。

しかし、ドイツ人は、目的地へ行くのに全員が切符を買うのです。誰一人お金を払わないで乗る人はいないのです。人が見ているとか高いとか安いとかは、関係ないのです。なぜなら、買う人がいなくなったら、鉄道会社は破産するからです。それで一番困るのは、市民なのです。つまり、自分で自分の首をしめることになるのです。

ドイツの人たちは目先のことや、自分のことだけにとらわれず、国全体のこと、これから先のことまで考えて行動しているのです。これが自主の精神ではないでしょうか。

自己中心的な考えではなく、周りの人たちや社会のこと、そして未来のことまで考えられる自主の精神。ぜひ、南中生として国際社会に通用する「**自主的精神**」を身につけたいものです。